

## 湖州鏡

この青銅でできた四角形の鏡は、南宋時代（西暦 1127～1279 年）に中国の湖州で作られたものです。この鏡は「湖州鏡」として知られています。その背面に、「こしゅうしん」と読める文字を含む中国語の銘刻があるためです。

この鏡は、釧路中心部の幣舞橋近く、釧路川のそばの竪穴建物跡を発掘している間に出土しました。擦文時代（西暦 600～1200 年）の間、この地域には村がありました。人々は、木の柱に支えられた茅葺の屋根で約 1m の深さの土の穴を覆った竪穴建物で暮らしていました。

様々な形をした類似の鏡は、本州の中ほどにある近畿地方から北は東北地方の日本海沿岸で見つかっています。しかし、北海道で発見された四角形の湖州鏡はこれのみです。この鏡は、5 世紀以降にオホーツク海周辺地域に定住したオホーツクの人々との交易によって中国から釧路にやって来た、と考えられています。